

一関市総合計画基本構想（素案）

1 はじめに

人口減少の現状

- ・ 当市の人口は減少の一途をたどり、今後の推計でも減少が進んでいく見込み（2050年には市の人口はおよそ半数となる見込み）
- ・ 人口減少は、私たちの暮らす地域や生活に影響を及ぼしている

人口減少への対処

- ・ 人口減少による影響を少なくし、地域の活力を高めていく取組が求められている
- ・ 私たちが暮らし、好きだと感じる今の「いちのせき」を変わらないよう維持していくためには、変わりつづけることが必要である

2 一関市の将来像

ひとりひとりが輝く 挑戦しつづけるまち いちのせき

ひとりひとりが輝く

- ・ まちの主役は市民一人ひとり
- ・ 年齢も住んでいる所も考え方も好きなものも異なる一人ひとりが、人生の、生活のあらゆる場面で、自らが望むように生き、生活を営むことで、一人ひとりの笑顔が輝く
- ・ 私たち一人ひとりの、人生の、毎日の、大きさも種類も異なるさまざまな挑戦を、誰もが受け入れ、互いに認め合うことで、笑顔がつながり、まちが輝く

挑戦しつづけるまち

- ・ 私たちはこれまで、郷土の宝をひとつずつ見つけ、一関市の魅力として育み、輝かせてきた。この一関市の魅力を次の世代に変わらないまま伝えていくために、未来に向かって挑戦して、変わりつづける
- ・ 好きなひとやもののため、そして自分のため、挑戦する人がいるまちでは、輝きと笑顔と愛が連鎖し、循環する
- ・ 市民一人ひとりのさまざまな挑戦を支援する
- ・ 暮らしやすさを実感できる

3 将来像を実現するための基本目標

(1) 基本目標

将来像を実現するために、私たちの暮らしの視点から、3つの基本目標のもとにまちづくりを進める

① いちのせきで「いきる」 ひかり輝く「ひとづくり」

「いきる」

- ・ 「いきる」ことは一人ひとり異なり、なりたい自分も一人ひとり異なる

ひかり輝く「ひとづくり」

- ・ 「まち」は「ひと」の集合体であり、「まちづくり」の土台は「ひとづくり」
- ・ 一人ひとりがなりたい自分を見つけ、人生を輝かしく豊かに彩ることができるよう、そして、誰もがその人の人生を認め、受け入れ、応援することができるよう、誰もがいきる幸せを感じられる、ひかり輝く「ひとづくり」を目指す

② いちのせきで「くらす」・「つどう」 暮らしやすさを感じる「まちづくり」

「くらす」・「つどう」

- ・ 「ひと」が暮らす場が「まち」であり、「ひと」が集って「まち」になる

暮らしやすさを感じる「まちづくり」

- ・ まちには、ひとと人、モノ、世界、過去、未来との、つながりが生まれる
- ・ まちに暮らすひとが輝くことで、まち全体が輝き、賑わう。
- ・ ひとがのびのびと暮らせる場としてのまちと、ひとがさまざまなかたちで集うことで生まれるまちを、整え、育て、培っていけるよう、誰もが暮らしやすさを感じられる「まちづくり」を目指す

③ いちのせきで「はたらく」 やりたいことが実現できる「しごとづくり」

「はたらく」

- ・ 「ひと」が「まち」で生き、暮らすことで、「しごと」が生まれる
- ・ 生きるための営みも誰かのための労働も、「はたらく」こと
- ・ 「しごと」は生活を支えるだけでなく、時にいきることを支えることもある

やりたいことが実現できる「しごとづくり」

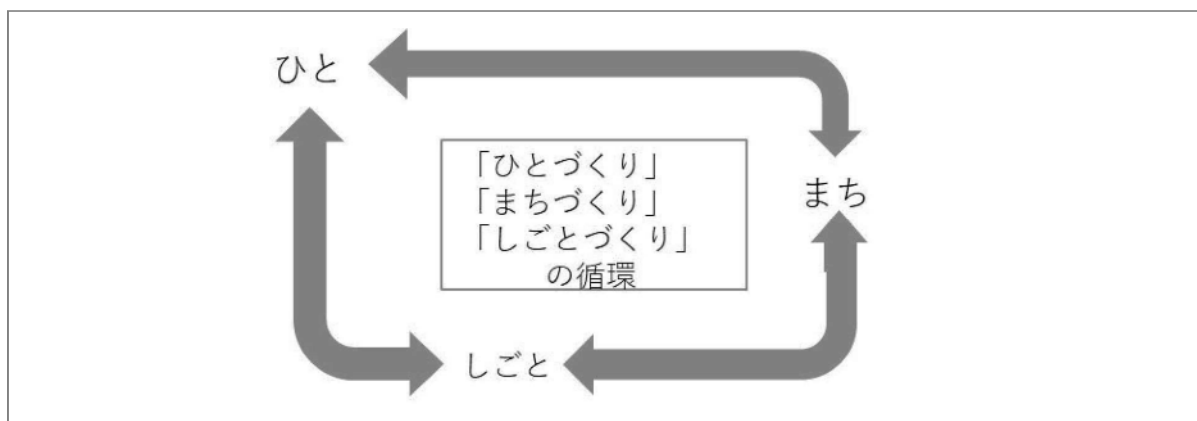
- ・ 暮らしやすいまちには、ひとが集まり、さまざまな、異なる魅力のしごとが生まれる
- ・ 誰もが自分の生活や生き方に合うしごとを選べるよう、やりたいことを実現できる「しごとづくり」を目指す

(2) 人口減少への対処

「ひとづくり」「まちづくり」「しごとづくり」の循環

～「ひと」が「まち」をつくり、「まち」に「しごと」が生まれる～

- ・ 人口が減少している中、今後の10年における3つの基本目標は、人口減少への対処が重要な視点となる
- ・ まちの主役は市民一人ひとりである。「ひと」が考え方の中心となり、ひとが動き出すことで「ひとづくり」「まちづくり」「しごとづくり」が循環する
- ・ 総合計画は、一関市に生き、暮らす私たちのすべてが目指す、まちづくりの方向性を定める計画である。目指す将来像に近づくよう、基本目標に向かって動くことで循環していくが、その循環のしかたは市民、行政、企業・事業者の視点によってさまざまとなる



市民の視点

「ひと」一人ひとりが輝くことで、輝く「まち」になる
輝く「まち」に、「しごと」が生まれる
さまざまな魅力をもつ「しごと」に、「ひと」が集まる

行政の視点

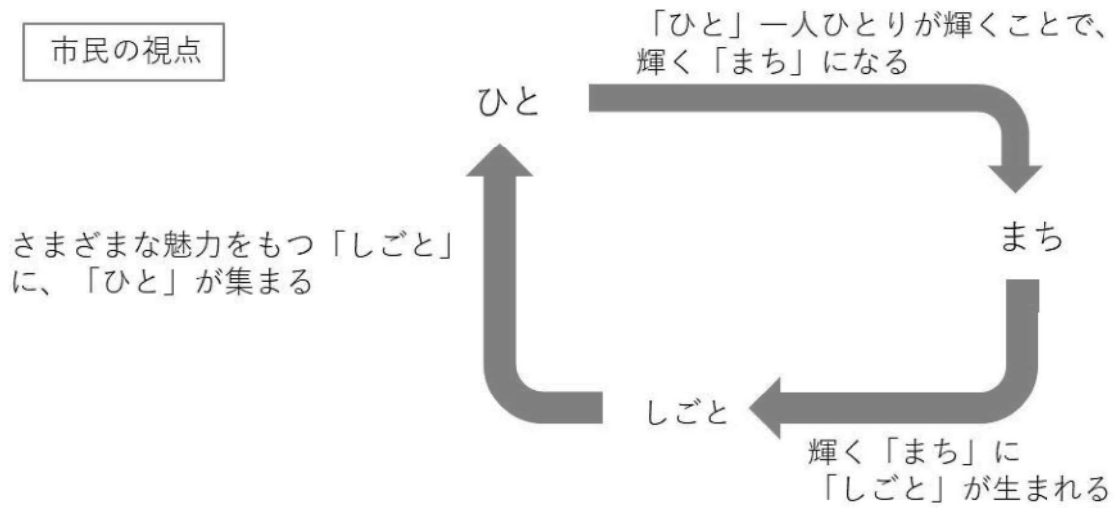
「しごと」があるところに「ひと」が集まる
「ひと」のニーズで「まち」をつくる
賑わいのある「まち」の土台となる「しごと」をつくる

企業・事業者の視点

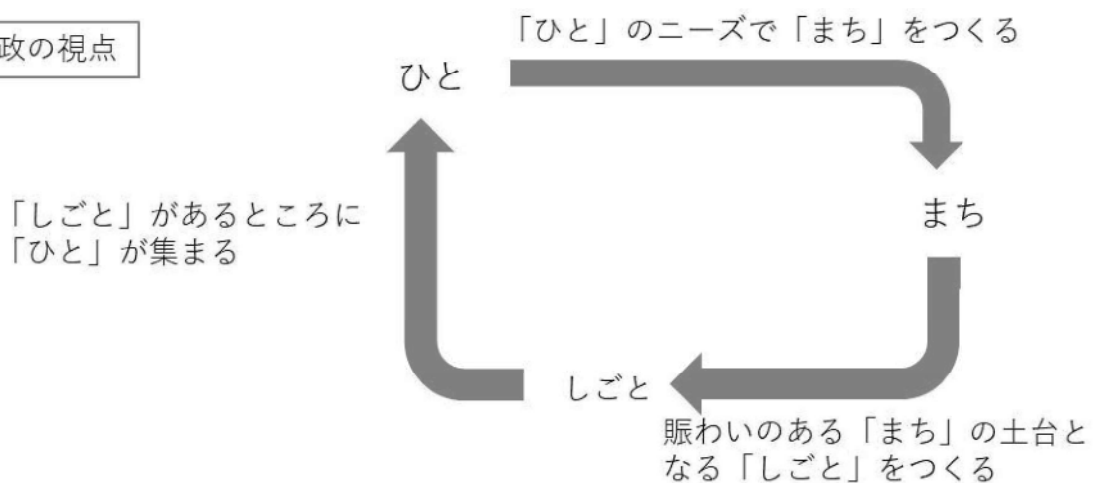
「しごと」を通じて「ひと」と「まち」を輝かせる
「ひと」が「しごと」の価値を高める
輝く「まち」に集まる「ひと」は、次の「しごと」を生み出す

視点によって循環のしかたはさまざまであるが、目指す将来像、基本目標は同じ

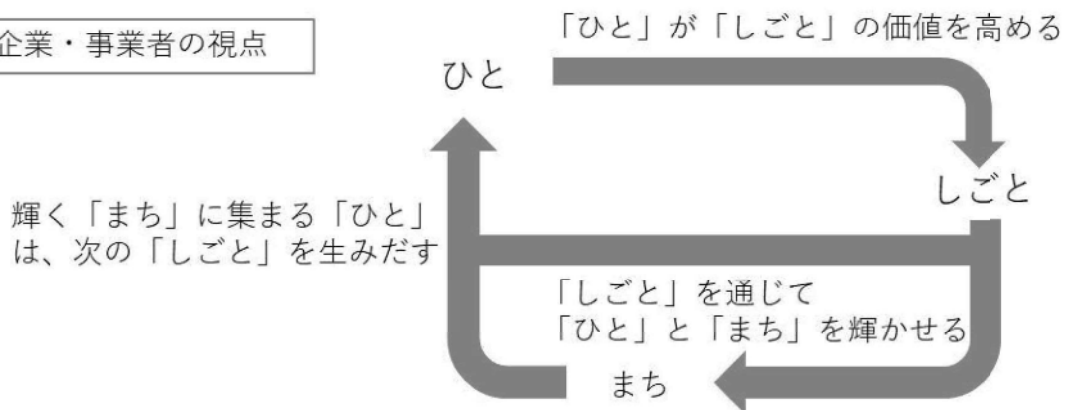
市民の視点



行政の視点



企業・事業者の視点



4 将来像を実現するための進め方と役割

将来像の実現のために、次の進め方と役割で、まちづくりを推進する

(1) 協働のまちづくり

- ・ まちづくりは市民と行政の協働により進めるものであり、お互いの立場を尊重した継続的な話し合いと合意により、協力して取り組むことが重要
- ・ 市民、自治会、地域協働体、企業などは、自らがまちづくりの担い手であるという意識を持ち、まちづくりに参加するほか、個人や地域でできることは自助、共助で、これで解決できない場合は協働、公助での解決を考える
- ・ 行政は、情報の提供をはじめ、協働のための人、環境、仕組みづくりに関し必要な支援などを行う

(2) 健全な行財政運営

- ・ 行政は、市民の視点に立った透明性の高い行政運営、人口減少なども踏まえた健全な財政運営を行うとともに、行財政改革を推進する
- ・ 市民は、行政運営に関心を持ち、健全な財政運営と事業執行が行われているかについて確認を行う

(3) 連携の推進

- ・ 行政は、県や近隣市町村、姉妹都市、友好都市などとの連携を深め、暮らしやすく魅力あふれるまちづくりを目指すとともに、各企業、団体などとはそれぞれの得意とする分野などで協力を得ながら、暮らしやすさを実感できるよう取組を進める
- ・ 市民は、近隣市町村や各都市について理解し、交流イベントへの積極的な参加などにより、住民同士のつながりを深め、連携の土台をつくる